

## 地域の概況

### 1、歴史

中世のこの地域は、「奥山荘（\*5）」といわれる一つの荘園により発展してきました。平安時代には、豪族・城氏が、要害・鳥坂城（鳥坂山）を中心に権威を奮い、県内一帯を支配するまでに繁栄しました。両地域には今も城氏やその血縁の女武将・板額御前（\*6）にまつわる史跡や逸話が多く残り、郷土の誇りとして語り継がれています。

鎌倉時代には、当時の地頭・和田氏が支配し、その後財産分与により領地は分割され、地域の中央を「中条（中条氏）」、北側を「北条（黒川氏）」と呼ぶようになります。両家は胎内川を境界としていたとも考えられますが、稲作農業の発展や活発な経済交流で活気を呈すものの、たびたび起こる領地争いや用水争い、市（いち）の設置による係争など、近くて遠いという間柄でもありました。

明治時代に実施された胎内河口の切り落とし事業は、沿岸住民を水害から守り、戦後行われた頭首工や幹線水路の土地改良事業の施行は、長い間続けられてきた胎内兩岸の水争いを解消しました。併せて山間地の開拓、機械化や共同経営などの施策により、農業者は意欲的な生産経営に取り組み、農業がこの地域の基幹産業となります。

昭和30年代に入ると化学工場の進出や胎内川上流のダム建設、発電が行われるなど、近代的な息吹が感じられる地域に発展していきます。昭和41年、翌42年、この地域は大きな水害に見舞われ、両町村で47名の犠牲者を出すなど未曾有の被害をもたらしましたが、その後の復興策により、中条町は県北の工業都市として、黒川村は自然を活かした観光開発により、現在の発展を遂げることとなります。

### 2、沿革

明治22年、明治政府は初めての近代的な地方自治の制度として「市制町村制」を施行しました。現在の中条町の区域では、中条町、柴橋村、本条村、乙村、横田村、松塚村、築地村、堀切村が置かれ、黒川村では黒川村、鼓坂村、坪江村となりました。

明治34年、いわゆる明治の大合併により黒川村は現在の村域となりました。同年、中条町も柴橋村、本条村と合併しています。

中条町は金塚村の一部を編入した後、昭和31年には乙村（明治期に横田村と合併）と合併していますが、当時は、中条町・築地村（明治期に堀切村の一部と、昭和30

年松塚村の一部と合併)・乙村・黒川村の4町村で合併が話し合われた経緯がありました。

また昭和39年には中条町・黒川村を含む5か町村により「中条地区町村合併協議会」が発足したものの、昭和41年の「7. 17水害」で協議は中断し、水害から免れた築地村が中条町と合併し、中条町は現在の形になりました。しかし、翌42年にも両地域を含む下越地方は「8. 28水害」に見舞われ、各町村の復興を第一として、以来合併協議は立ち消えとなりました。

### 3、地勢と自然環境

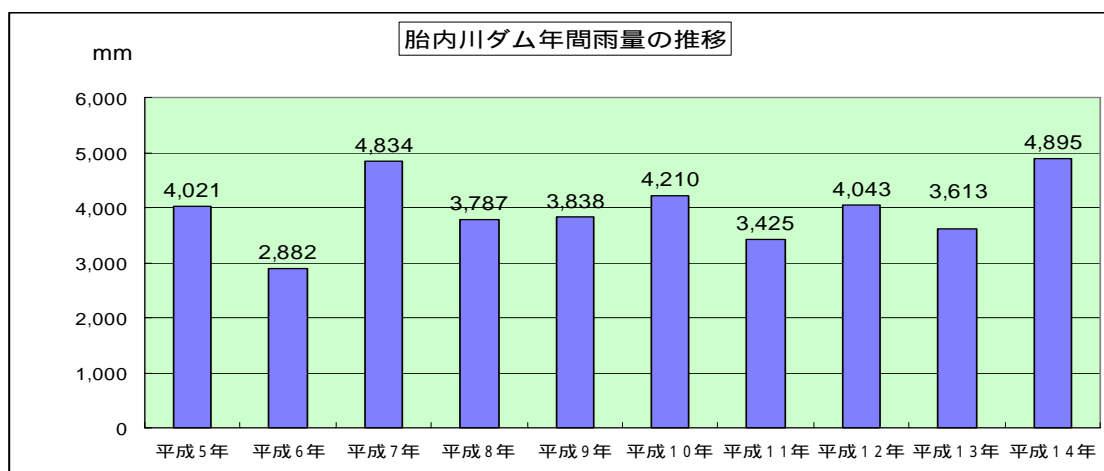
両町村は、新潟県の北東部、北蒲原郡の北端に位置し、以前から「北部郷(\*7)」と呼ばれる生活圏を形成していました。

東には飯豊連峰(1,887m)が山形県境に接し、西には日本海が広がり、総面積は265.18km<sup>2</sup>(中条町84.58km<sup>2</sup>、黒川村180.60km<sup>2</sup>)、県都・新潟市までは約40kmの位置にあります。

四季折々の美しい自然に彩られる両地域は、飯豊連峰を源とする母なる川・胎内川を中心に町村域を形成しています。15キロに及ぶ海岸線には砂丘と松林、胎内川扇状地には緑の優良農地が広がっています。また黒川村・胎内地区はそのほとんどが山地で占められますが、胎内溪谷と山々の美しい自然が訪れる人を魅了しています。地域の中央には南北に楯形山脈・蔵王山塊が連なり、平野部と山間部を分けています。

気候は、日本海型気候に属す積雪寒冷地です。冬期間は季節風が強く、山間部では多くの積雪があり、夏は高温多湿で集中豪雨が発生しやすい気候です。

#### 【胎内川ダム年間雨量の推移】



(新発田土木事務所ダム管理課)

これらの雨や雪によって、母なる川・胎内川が水を集め、この地域を潤してきました。生活用水はもちろん、農業用水や工業用水に利用されていますし、2,000メートル級の山々を源流とし、僅か40キロあまりで河口にたどり着く間、貴重な動植物を守り育て、珍しい地形を見せてくれます。

またこの地域は、古くから原油の産地でもあり、日本書紀に登場する「燃水（ねんすい）」献上地は黒川村といわれ、「黒川」という地名も原油に由来しているといわれています。中世・江戸時代には「臭水（くそうず）：（原油）（\*8）」の採掘坑が多く掘られておりました。また両地域では、明治期から戦後まで、石油の採掘・精製が盛んに行われていました。黒川村塩谷の日本最古の油壺周辺は、採油技術を伝えたイギリス人にちなみ「シンクルトン公園」と呼ばれています。

現在、油田は中条町沖の海底の層が中心となりますが、年間20万トン、国内生産量の約40%が中条町で産出されています。

#### 4、交通体系

両地域は、中央に国道7号が南北に走り、海岸線には国道113号、山間部には国道290号がそれぞれ平行に走り、新潟市ほか近郊の都市と結んでいます。これらは、同じく新潟と秋田を結ぶJR羽越本線とともに、地域生活、地域交流、産業経済の軸となっています。

平成14年秋には「日本海東北自動車道」が中条インターチェンジまで開通して、新潟市や首都圏を結ぶ骨格道路が整備されるとともに、アクセス道路や中条地内の主要国道7号は一部四車線化が図られ、両地域にも本格的な高速交通社会が訪れました。これに伴い、中条インターから新潟市までは30分圏内となり、新潟市と村上市の間には高速バスの運行も始まりました。

これら交通体系の整備は、中条町内に整備されている中核工業団地への工場誘致や、黒川村が進める通年リゾート事業など、外資本の導入や産業の育成、地域間交流を進める上で、この地域の拠点性を発揮するものとして期待されています。

しかしながら、黒川地区と山間部の胎内地区を結ぶ幹線道路の一部には迂回路がないため、緊急時の対応が課題とされています。

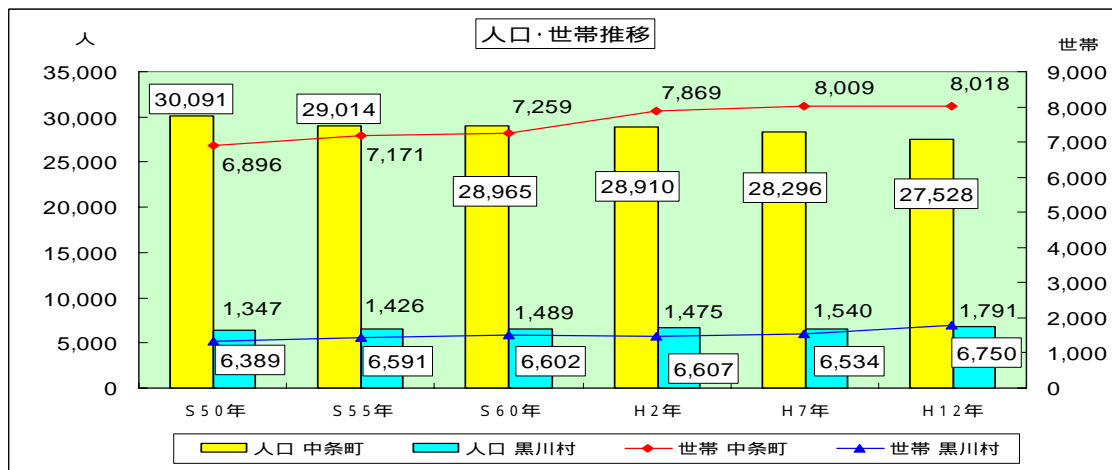
また、地域内の公共交通体系としては路線バスが運行されていますが、利用者は減少傾向にあり、両町村からの補助により路線が維持されている状況にあります。

## 5、人口と世帯

両地域の人口は、平成12年国勢調査における人口34,278人、平成15年3月の住民基本台帳では33,888人となっています。

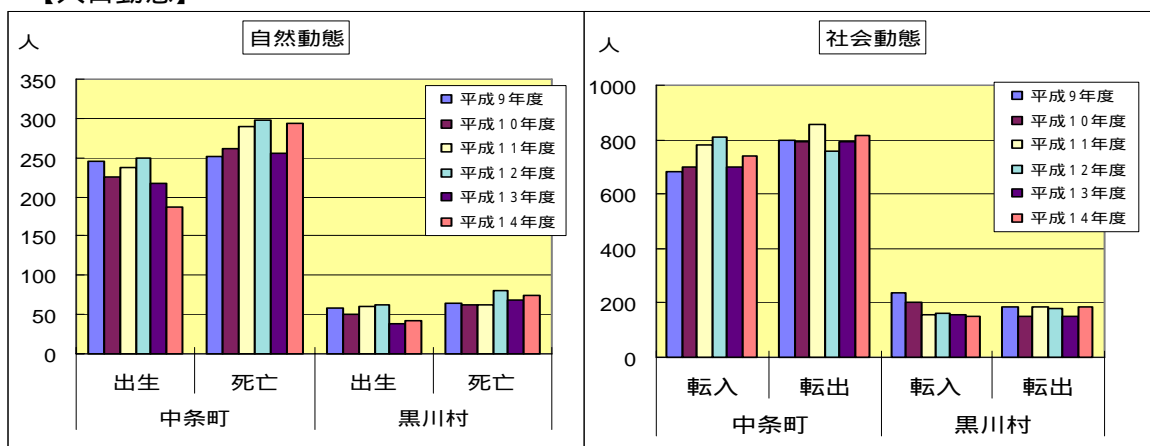
中条町では、昭和50年国勢調査の30,091人を最高に、昭和55年から前回比で1ポイント程度の減少傾向が続いています。逆に黒川村では極端な増加傾向にはないものの、長年の地域おこしの成果により、昭和50年をピークに人口流出に歯止めがかかり、平成元年には過疎地の指定を解かれています。また、全国的な傾向ではあるものの両地域とも年少人口の低下の反面、老年人口の増加が進んでいます。

### 【人口・世帯数の推移】



(国勢調査)

### 【人口動態】

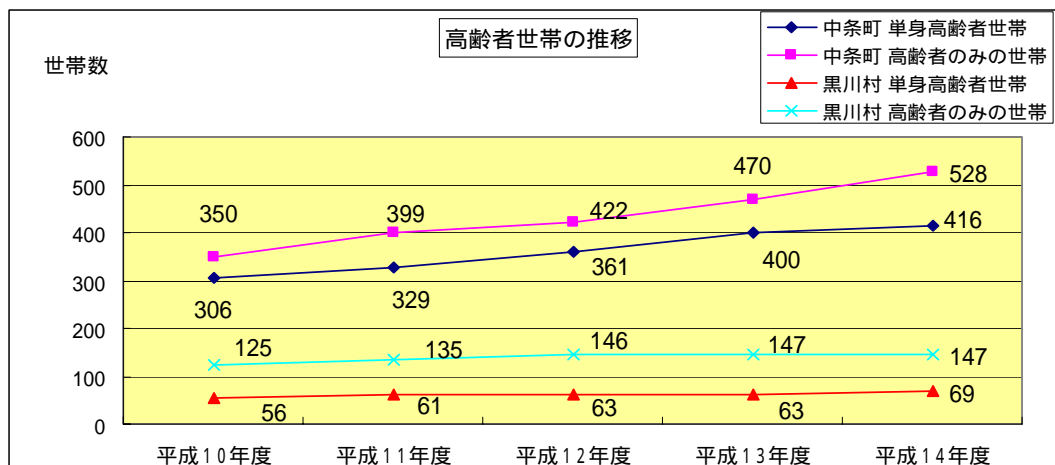


(両町村住民基本台帳担当課)

加えて、人口動態での増減をみた場合、中条町では転出による社会的要因の減のほか、両地域とも出生率の低下による自然減が顕著に現われています。

世帯数については、両地域とも僅かずつですが増加傾向にあり、地域内で核家族化が進んでいるものと考えられます。ただし、高齢者のみ世帯、高齢者のひとり暮らし世帯の急激な増加を見逃すことはできません。

### 【高齢者世帯の推移】



(両町村高齢者福祉担当課)

## 6、住民生活

都市化の進展により、高度な都市機能が求められています。

住民生活の中では、中条町の胎内川左岸の中条地区・築地地区で公共下水道事業が年次的に進められていますし、胎内川右岸地域や黒川村では農業集落排水事業（\*9）による整備が実施されています。黒川村では、平成14年度末までに大長谷地区を除いて86%が整備を終えています。

保健・医療・福祉施設においては、地域の医療を担う中条中央病院、黒川病院を中心に、それぞれ在宅介護支援センターや老人保健施設などが機能的に配置されています。特に、高齢者の生きがいと健康づくりの発信基地として中条町に設置された保健福祉施設「ほっとHOT・中条」は、その多彩なプログラムやボランティアを中心とした積極的な取り組みが、他の自治体からも注目を集めています。

教育関連では、中条町で小学校の統合計画が進んでいる一方、中条小学校では老朽化が激しく大規模な改修が望まれていますし、また黒川村の大長谷小学校では児童の減少から一部複式学級が導入されていることから、教育環境面から十分な議論をしなければならない時期にあります。

また、スポーツ施設や教育関連施設も各方面から整備・充実が望まれています。中条町が策定した生涯学習計画でもソフト・ハード面での学習環境の整備が検討課題として挙げられています。

両町村とも、インターネットの普及による情報通信技術の発展は、時間や距離の制約を克服し、今後、福祉、保健、教育の各分野において、住民ニーズを満たす役割を担うものとして総合計画の中でも位置付けています。

## 7、産業構造

両地域とも農業は「コシヒカリ」をはじめとする稲作を基幹に、中条町ではチューリップ（球根）や葉たばこ、ねぎ、大豆等、黒川村では肉用牛などを取り入れた複合化が進んでいる状況にあります。

### 【農業産出額（平成13年～14年）】

（単位：百万円）

	米	麦類	雑穀 豆類	いも 類	野菜	果実	花き	工芸 農作物	畜産	その 他	総額
中条町	3,236	11	133	36	679	25	521	969	4,619	51	10,280
黒川村	1,138	1	21	8	69	2	10	0	238	1	1,488

（新潟県農林水産統計年報）

そのほか中条町では、昭和30年代に天然ガスの発掘により化学工場が進出したのを契機に、大手企業の進出が相次ぎ、県北の工業都市としての基盤を確立しました。重ねて新潟中条中核工業団地（\*10）の整備が図られ、工業団地を中心とした更なる企業集積が期待されていますが、経済の低迷により進出状況は大変厳しいものがあります。

### 【製造品出荷額】

（単位：百万円）

	食料品	飲料・たば こ・飼料	衣服・ その他	木材・ 木製品	家具・ 装備品	パル プ・紙	出版・ 印刷	化学	プラスチ ック製品	皮革製 品
中条町	4,169	231	357	691	157			31,529	504	-
黒川村	815	-	3,002	58	-	-	-		-	
	窯業・土石 製品	鉄鋼	非鉄金 属	金属製 品	一般機 械	電気機 械	輸送用 機械	精密機 械	その他 製造	総額
	2,135		-	2,440	5,368	8,300	3,796		27	61,020
	1,847	-					-	-		14,096

\* は事業所が少ないため、調査の内容が特定されるおそれがあることから数値が公表されていないことを示す。

（工業統計平成13年）

商業については、新発田・村上の商業圏の谷間とされる傾向があり、中条町の市町

村別買回品購買率を見たとき1位が新潟市、2位が新発田市という結果があります。

しかしながら、中条町の居住地への依存率が53%、黒川村の購買率を見たとき第1位の中条町への依存は41%といずれも高い数字を示しており、国道7号線沿いの大型店進出も相まって、独立した商業圏域を形成しつつあります。

【年間販売額(卸売業)】

(単位：百万円)

	繊維・衣服等	飲食料品	建材・鉱物・金属材料等	機械器具	その他	総額
中条町		6,107	2,987		825	11,033
黒川村	-			1,535	-	2,938

【年間販売額(小売業)】

(単位：百万円)

	各種商品	織物・衣服等	飲食料品	自動車・自転車	家具・じゅう器・家庭器具	その他	総額
中条町	2,372	1,450	8,600	2,501	3,007	7,238	25,168
黒川村	-	68	1,177	29	49	1,319	2,641

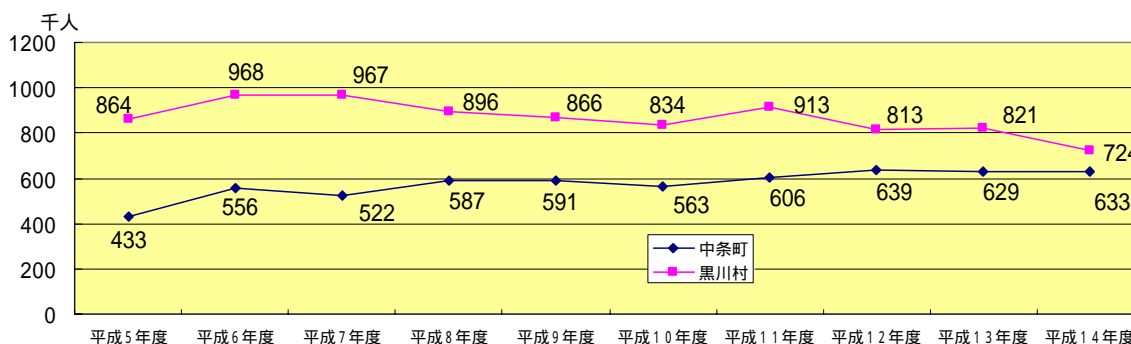
\* は事業所が少ないため、調査の内容が特定されるおそれがあることから数値が公表されていないことを示す。

(商業統計平成14年)

黒川村は、昭和40年、国設胎内スキー場が完成したのをきっかけに、豊かな自然環境を生かした各種スポーツ、保養、レクリエーション施設等の整備を行政自らが進めてきました。公的資金による観光産業の開発は、スキー場、ホテル、ゴルフ場などにおよび、観光客の入り込み数は、平成6年度、過去最高の96万人に達しましたが、景気の低迷による節約ムードや低価格競争などの影響により、全国的な傾向とはいえ観光収入面では厳しい状況にあります。

中条町においては、チューリップフェスティバルが、県内外からも観光客を集め、入込数も微増の状況にあります。

【観光客の入込数推移】



(両町村観光担当課)

## 8、これまでのまちづくり

中条町は企業城下町といわれるほど、企業の進出に伴い人口流入が顕著な時代がありました。高校の学区制の問題からその後人口流出が激しく、地元への高等教育機関の設置が長年の懸案でした。昭和63年、日米貿易拡大促進事業の一環としてアメリカの大学・南イリノイ大学（S I U C）新潟校（\*11）の誘致に成功し、以来「国際文化都市」を機軸に交流拠点としてのまちづくりを行ってきました。

南イリノイ大学新潟校の設置は、新潟県とイリノイ州の経済交流に寄与するとともに、そのノウハウは幼児・児童向けの英語教室「イリノイアカデミー」にも活かされています。今後も産学一体となった研究・開発などに発展することが期待されています。

また近年は、奥山荘・板額御前に代表される歴史・文化を後世に引き継ぐことを目的に、歴史の広場整備、板額御前奮戦800年イベント（\*12）などが開催され、中世の歴史を知る上で県内外の注目を集めています。

一方、黒川村は、前述のとおりホテル、スキー場を中心とした観光事業が特徴で、村直営の雇用型観光施設には約200名の住民が働いています。就労の場を創出し、人口の流出に歯止めをかけるとともに、山村・豪雪というイメージを払拭することに成功した地域おこしは、一躍全国の自治体から注目を集めることとなります。

観光客は、年間100万人観光に手の届くところまで来ていますが、黒川村では、サービス拡充の一環として、村営の旅行業・観光バス事業との連携を強化するとともに、特産品の開発や地場産業の育成など多彩な観光ネットワーク産業の構築に力を注いでいます。

## 9、行政組織と財政事情

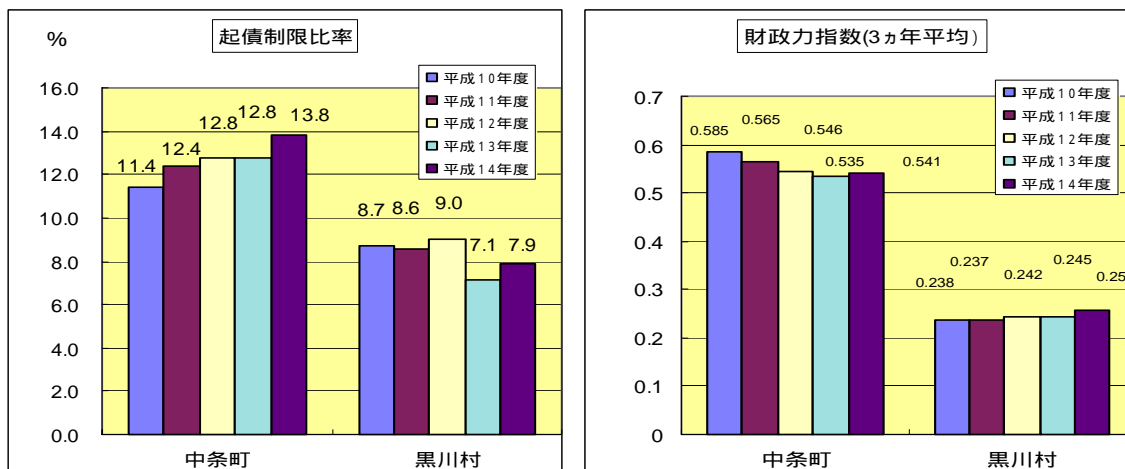
多様化する住民ニーズを的確に捉え、地方分権の流れに対応することが本来の地方自治の実現に繋がるわけですが、両町村とも交付税の削減や税収の伸び悩みなどにより、行財政の運営は極めて厳しいものがあります。

特に財政的には、中条町において起債制限比率（\*13）が年々上昇（平成14年度13.8%）していることから、今後財政の硬直化を招かないように注意が必要で、黒川村では財政力指数（\*14）が0.257ポイントと県平均0.382を大きく下回り、補助金や交付税等への依存度が大きいことがうかがえます。

この状況は、今後も一層厳しさを増すことが考えられていることから、両町村とも三位一体の改革に対応すべき施策を打ち出す必要に迫られています。



【両町村の財政状況（起債制限比率・財政力指数）】



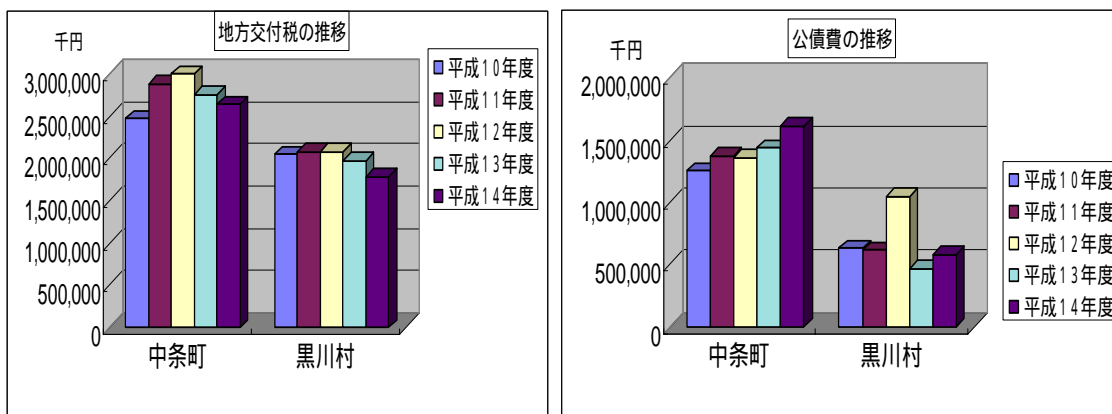
(資料：県市町村財政の状況)

このような状況下、中条町は「中条町第3次長期計画」で、また黒川村でも「第3次黒川村総合計画」の中で、行政の効率的・効果的な運営を主要施策とする各種改革を盛り込んでいます。

加えて中条町においては、平成13年度に「中条町行政改革の進め方（行政改革大綱）」を策定し、事務事業の評価制度を取り入れ、事務事業の見直しや民営化などによる個々の事業の望ましい在り方を常にチェックする機能を確立することにしていきます。

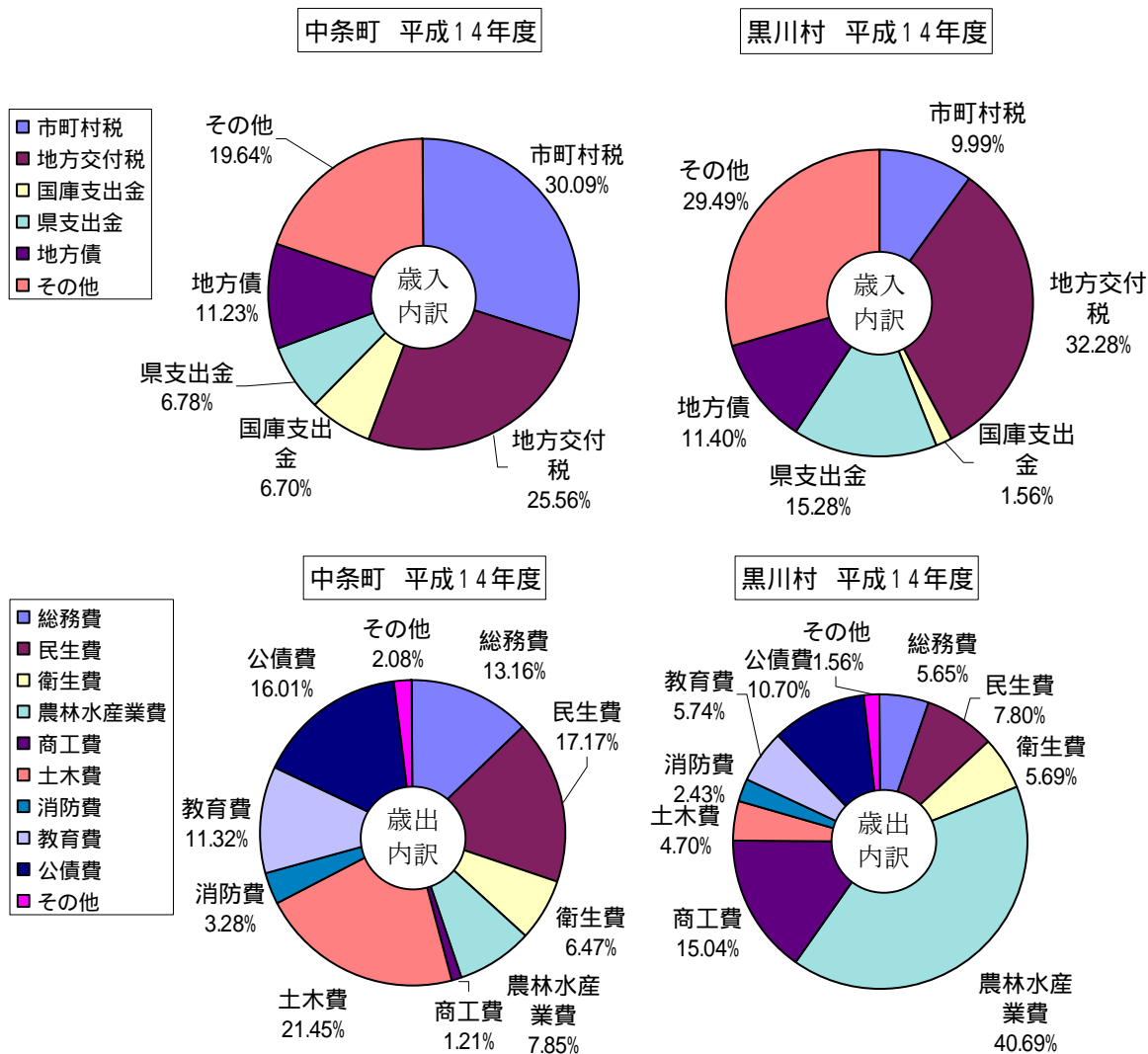
また、両町村の計画では、職員の研修と人事管理について、強化や適正化を盛り込んでいます。特に「定員適正化計画」については、財政の健全化や事務事業のスクラップアンドビルド（\*15）とともに、今後の行政運営を進める上で大きな課題となってくるものと考えられます。

【両町村の財政状況（決算収支・歳入歳出総額）】



(資料：県市町村財政の状況)

【両町村の財政状況（決算事項別割合）】



【両町村の財政状況（決算収支・歳入歳出総額）】

（単位：千円）

		中条町	黒川村
決算額	歳入	10,324,406	5,543,359
	歳出	10,096,514	5,455,074

（両町村財政担当課）

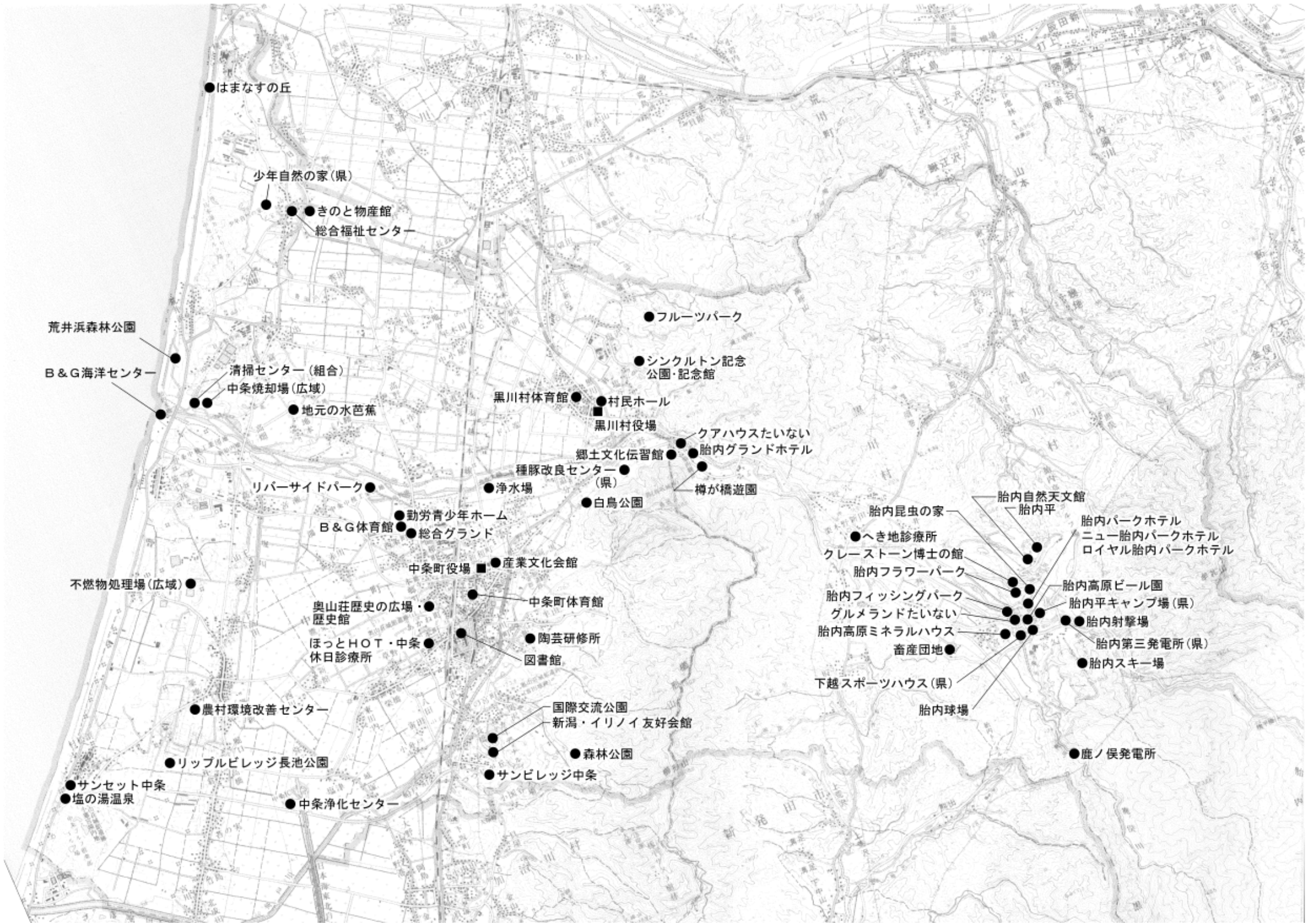
財政的数値は普通会計のものを使用しています。

## 【用語解説】

- (\* 5) **奥山荘**…中条町を中心に北蒲原郡北部、岩船郡南部に広がる中世の荘園。往時の勢力を検証することができる国指定の城館遺跡や波月条絵図は全国的に有名。歴史の広場として整備された江上館跡は、城氏滅亡の後、奥山荘を与えられた三浦和田氏のものを再現したもの。
- (\* 6) **板額御前**…越後一円に勢力を誇った城氏の血縁で、歴史書「吾妻鏡（あづまかがみ）」に弓の名手と記されている。幕府の討伐を受けた鳥坂城の戦いでは、百発百中の強弓の腕前を振るったが、捕らわれた後、甲斐国・浅利家に嫁いだ。勇敢であったことに加え、美人でもあったとされ、静御前、巴御前とともに、日本三大御前といわれる。
- (\* 7) **北部郷**…北蒲原郡の北部、現中条町・黒川村をエリアとする地域。これに対し現阿賀野市（旧水原町等）を南部郷と呼ぶ。
- (\* 8) **臭水（くそうず）**…原油。日本書紀によれば、天智天皇に「越国、燃ゆる土燃ゆる水を献ず」と記述されており、この燃える水こそ、黒川村の地から採取されたものであるといわれている。臭い水であったことから「くさみず」、「くそうず」と変化したと考えられる。原油が湧出し、川が黒くなったことから「黒川」の名がついたといわれている。
- (\* 9) **農業集落排水事業**…農業用の用排水路に生活雑排水が混入するのを防ぎ、快適な農村環境を確立するための汚水処理事業。黒川村全域、中条町でも胎内右岸地域で実施されている。農林水産省の補助事業。
- (\* 10) **新潟中条中核工業団地**…地域振興整備公団により造成された工業団地。中条町鴻の巣と笹口浜の2地区94ヘクタールが、平成9年から分譲予約を開始したが、進出企業は4社にとどまっている。今後、経済情勢の好転による企業進出が期待されている。
- (\* 11) **南イリノイ大学（SIUC）新潟校**…日米貿易促進の一環として中条町が誘致に成功したアメリカの州立・南イリノイ大学の日本分校として、昭和63年に開校。新潟県とイリノイ州や中条町と本校所在地であるカーボンデール市の交流のきっかけになったほか、そのノウハウは幼児・児童向けの英会話教室・イリノイアカデミーや、町内の学校教育にも活かされている。
- (\* 12) **板額御前奮戦800年イベント**…平成13年、この年は建仁元年の鳥坂城の戦いで板額御前が活躍してから800年にあたることから開催された記念イベント。シンポジウムや講演会のほか、中条町民が参加した武者行列やビデオ制作が行われた。
- (\* 13) **起債制限比率**…公債費（地方公共団体が借り入れた地方債の元利償還金及び一時借入金利子の合計額）が一般財源に占める割合で、自由に使えるお金に占める借金返済額の割合。3年の平均が20%を超えた場合、借金に制限がかかり、自由に借

金が出来なくなる。

- (\*14) **財政力指数**…地方公共団体の財政力（体力）を示す指数。一般財源必要額に対して町村税等の一般財源収入額がどの程度確保されているかを測るものでこの指数が1.0に近づくほど自主財源（地方公共団体が自主的に収入できる財源）の割合が高く、財源に余裕があるものとされている。
- (\*15) **スクラップアンドビルド**…行政が既存の事業を見直し、採算や効率の悪い事業を廃止して新規事業に取り組むこと。



●はまなすの丘

●少年自然の家(県)

●きのと物産館

●総合福祉センター

●荒井浜森林公園

●B & G 海洋センター

●清掃センター(組合)

●中条焼却場(広域)

●地元の水芭蕉

●フルーツパーク

●シンクルトン記念公園・記念館

●黒川村体育館

●村民ホール

●黒川村役場

●クアハウスたいない

●胎内グランドホテル

●郷土文化伝習館

●種豚改良センター(県)

●樽が橋遊園

●浄水場

●白鳥公園

●リバーサイドパーク

●勤労青少年ホーム

●B & G 体育館

●総合グランド

●胎内昆虫の家

●胎内自然天文館

●胎内平

●胎内パークホテル

●ニュー胎内パークホテル

●ロイヤル胎内パークホテル

●不燃物処理場(広域)

●中条町役場

●産業文化会館

●へき地診療所

●クレストン博士の館

●胎内フラワーパーク

●胎内フィッシングパーク

●グルメランドたいない

●胎内高原ミネラルハウス

●畜産団地

●胎内高原ビール園

●胎内平キャンプ場(県)

●胎内射撃場

●胎内第三発電所(県)

●胎内スキー場

●奥山荘歴史の広場・歴史館

●ほっとHOT・中条  
●休日診療所

●中条町体育館

●陶芸研修所

●図書館

●下越スポーツハウス(県)

●胎内球場

●農村環境改善センター

●国際交流公園

●新潟・イリノイ友好会館

●森林公園

●サンビレッジ中条

●鹿ノ俣発電所

●リップルビレッジ長池公園

●中条浄化センター

●サンセット中条

●塩の湯温泉